

高機能性材料の——

TOMOE GAWA


Global, Growth, Group

機関投資家向け説明資料


2011年6月



当社グループ概要



2011年3月期報告



2012年3月期計画



凸版印刷との提携



海外展開

名称：株式会社巴川製紙所
創業：1914年（大正3年）6月19日
資本金：28億9,495万円（東証一部上場）
売上高：416億（2011年3月期連結）
代表取締役社長：井上善雄
従業員数：1,250名（2011年3月末連結）

主な事業内容：
F P D 関連製品、半導体関連製品、
化成品（トナー）、特殊紙・加工紙の製造・販売

所在地：本社/東京都中央区京橋1-7-1
静岡事業所/静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1
清水事業所/静岡県静岡市清水区入江1-3-6
大阪営業所/大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

特殊紙時代

- 1914年：初代社長井上源三郎、現静岡市清水区に巴川製紙所を創設、電気絶縁紙・電気通信用紙の研究を開始
- 1917年：株式会社巴川製紙所を設立
- 1933年：現静岡市駿河区に用宗工場を新設
- 1945年：クラフトパルプの自社生産を開始
- 1949年：用宗工場内に技術研究所を設立
- 1958年：新宮工場内に抄紙機を設置、パルプから紙への一貫体制を確立
- 1960年：静岡工場に加工紙工場新設
- 1961年：東証一部上場

情報記録媒体時代

- 1963年：トナーの開発を開始、67年商品化、量産開始
- 1969年：磁気記録媒体の上市
- 1978年：アメリカに現地法人設立、81年トナー生産開始

- 1984年：オランダに現地法人設立、トナー販売を開始
- 1988年：トナー製造部門が化成品工場として独立

エレクトロクス時代

- 1989年：清水事業所に半導体関連製品工場設置
- 1992年：静岡工場内に偏光板粘着加工の工場を設置
- 1995年：パルプ事業撤退(新宮工場閉鎖)

- 2001年：静岡事業所にFPD用光学フィルム及び半導体関連製品の工場を新規設置
- 2004年：香港にトナー販売用現地法人設立
- 2005年：中国惠州に現地法人設立、翌2005年トナー生産開始
- 2007年：福井県敦賀市にFPD向け光学フィルム工場設置
- 2010年：凸版印刷株式会社と合併でLCD用反射防止フィルムの製造会社設置
- 2011年：中国九江市に現地法人設立
- 2014年：創業100周年

1914-18年：第一次世界大戦
電気絶縁紙・電気通信用紙の輸入が滞る

1939-45年：第二次世界大戦

1950-53年：朝鮮戦争

60年代：複写機登場

1965-70年：いざなぎ景気
1973年：変動相場制移行
：第一次オイルショック

70-80年代：日本製複写機世界市場席巻
：磁気乗車券用改札機普及

1979年：第二次オイルショック
1985年：ハイテク景気
：プラザ合意
1987-91年：バブル景気

90年代末：金融危機
2001年：ITバブル
00年代：中国が貿易相手国第一位に

2000年～：液晶テレビ生産本格化

2008年：リーマンショック

2011年：東日本大震災

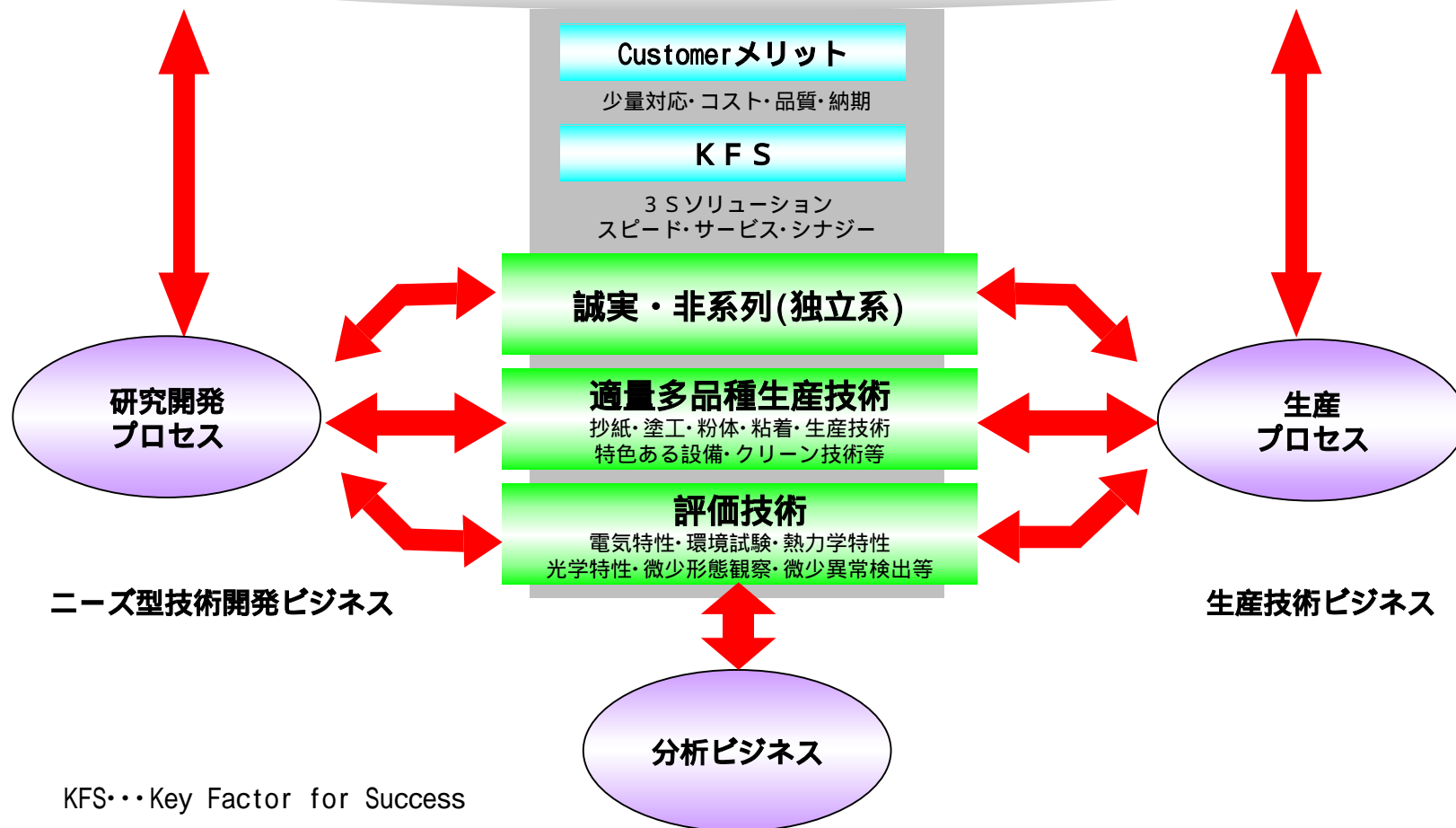
FPD時代

全社戦略構想

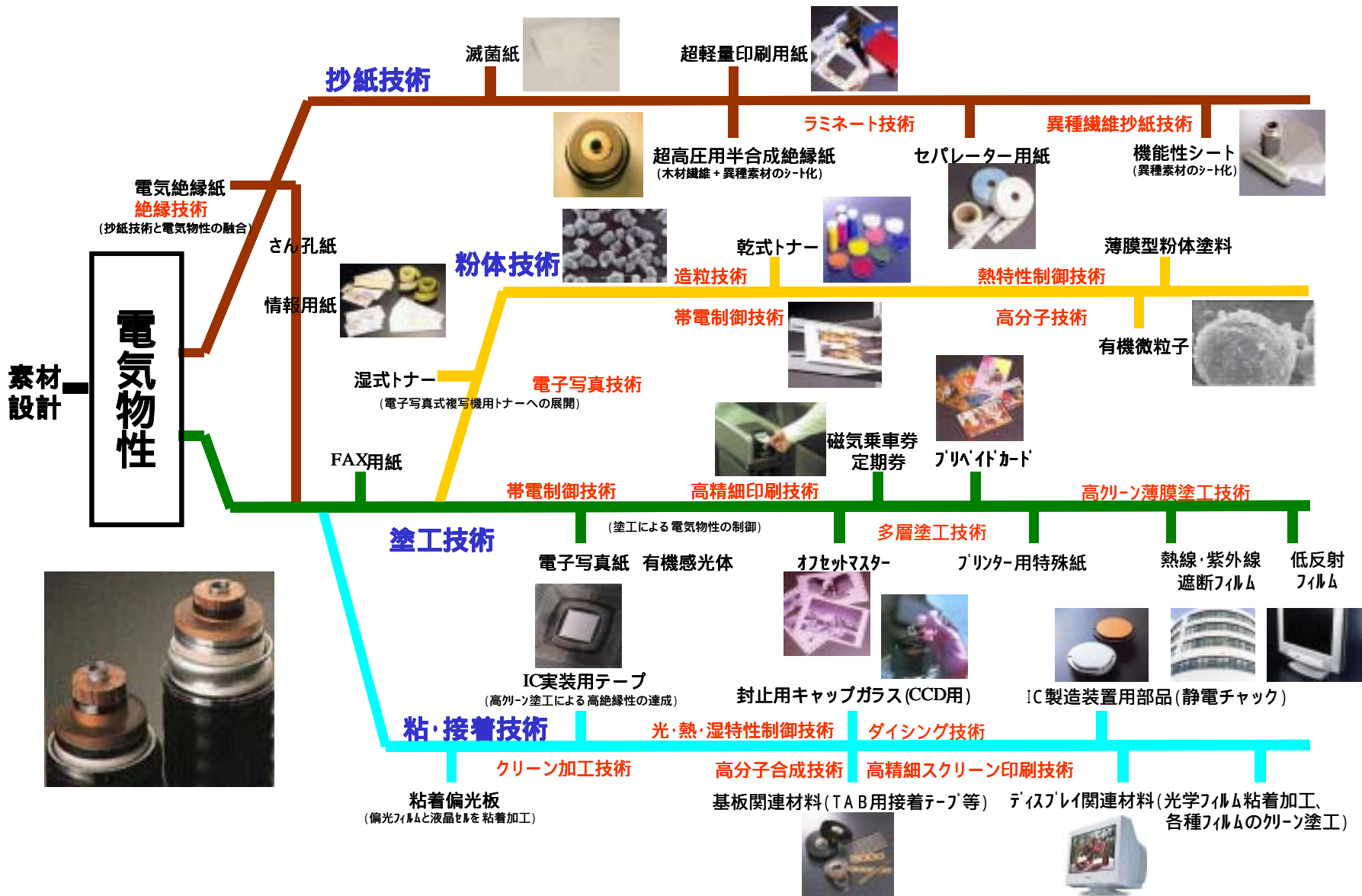
製品を売る会社から
プロセス(研究開発/製造/品質保証)を売る会社へ

Innovative Customers

OEM Customers

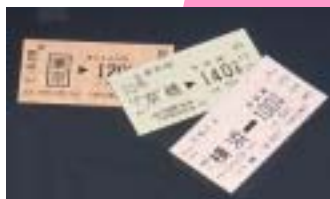


KFS・・・Key Factor for Success





超高压用半合成絶縁紙



磁気乗車券



トナー

製紙・塗工紙
関連事業
約137億

2010年度
売上高
416億

プラスチック材料
加工事業
約278億



プラズマテレビ用光学粘着



IC実装用テープ



基板関連材料(TAB用接着テープ等)



IC製造用部品(静電チャック)

静岡・清水両事業所を中心とした事業活動を展開

セグメント	事業分野	主要製品	主なグループ会社	
プラスチック 材料加工事業	FPD 関連製品	PDP及びLCD向け光学粘着 LCD向け光学フィルム	TFC	日本ゼオン㈱との合併会社 光学フィルム等の製造
			トッパンTOMOEGAWA オプティカルプロダクツ	凸版印刷㈱との合併会社 LCD向け光学フィルムを製造
	半導体 関連製品	基板材料(TAB用接着テープ) パッケージ材料(LF固定用テープ) 半導体製造装置用部品(静電チャック) 光センサー部品・気密封止用接着剤	テクニカ巴川	巴川製品の仕上加工工場
	微粒子製品	トナー	TOMOEGAWA(U.S.A)INC.	北米製造・販売拠点
			TOMOEGAWA EUROPE B.V.	欧州販売拠点
巴川影像科技(惠州)有限公司			中国製造拠点	
巴川香港有限公司			中国販売拠点	
		日彩影像科技(九江)有限公司	中国製造・販売拠点(2011年設立)	
製紙・塗工紙 関連事業	特殊紙 機能紙 磁気記録材料	電気絶縁紙・超軽量印刷用紙 滅菌袋用紙・通帳用紙 剥離紙・機能性シート ガムテープ・重包装紙袋 磁気乗車券・プリペイドカード	新巴川製紙	洋紙・機能紙製品の製造・販売
			日本理化製紙	粘接着材料品の製造・販売
			三和紙工	特殊紙・機能紙製品の製造・販売

当社グループ概要

2011年3月期報告

2012年3月期計画

凸版印刷との提携

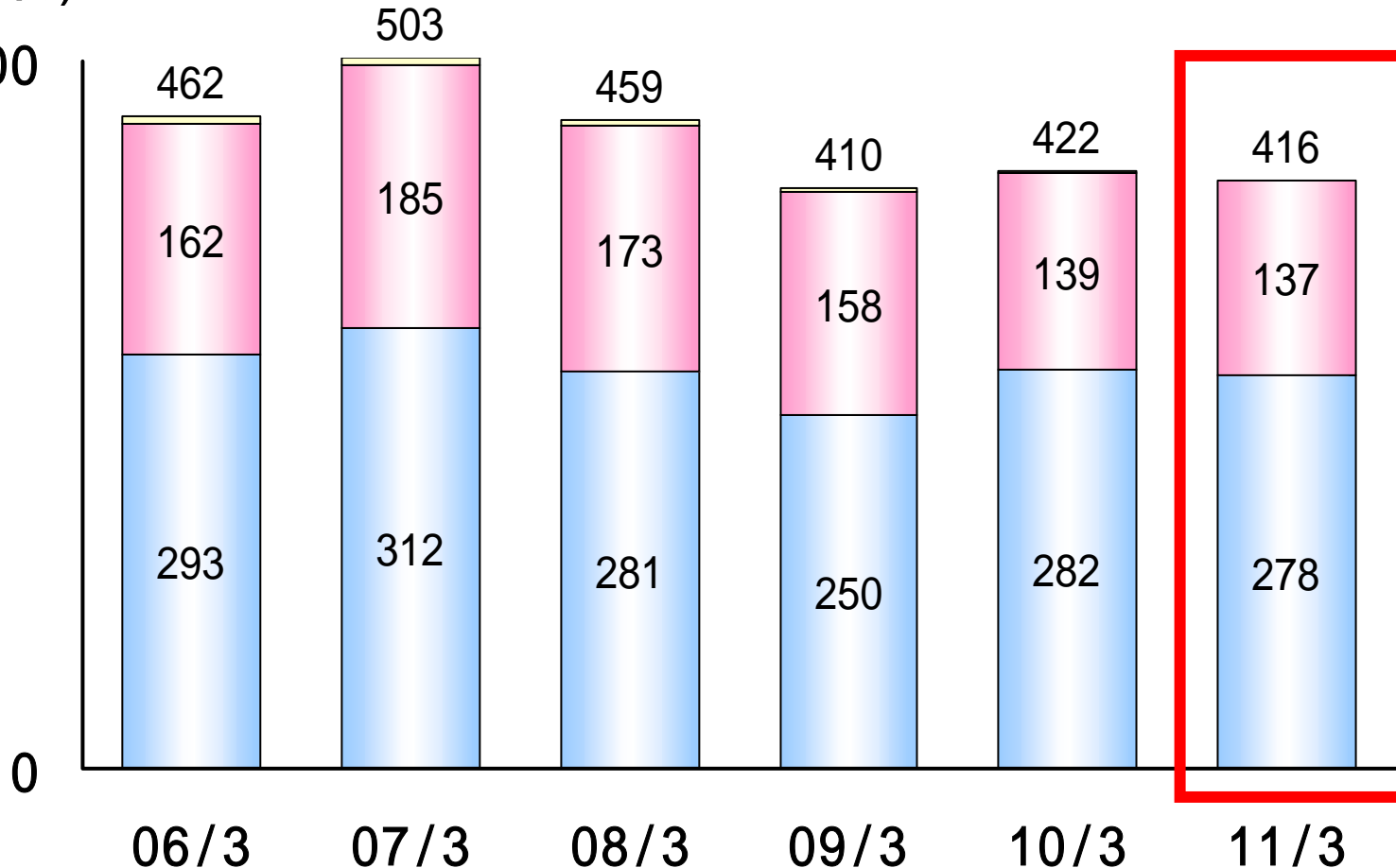
海外展開

2011年3月期連結売上高

2011年3月期の連結売上高は対前年度横這いの416億2千6百万円

(億円)

500

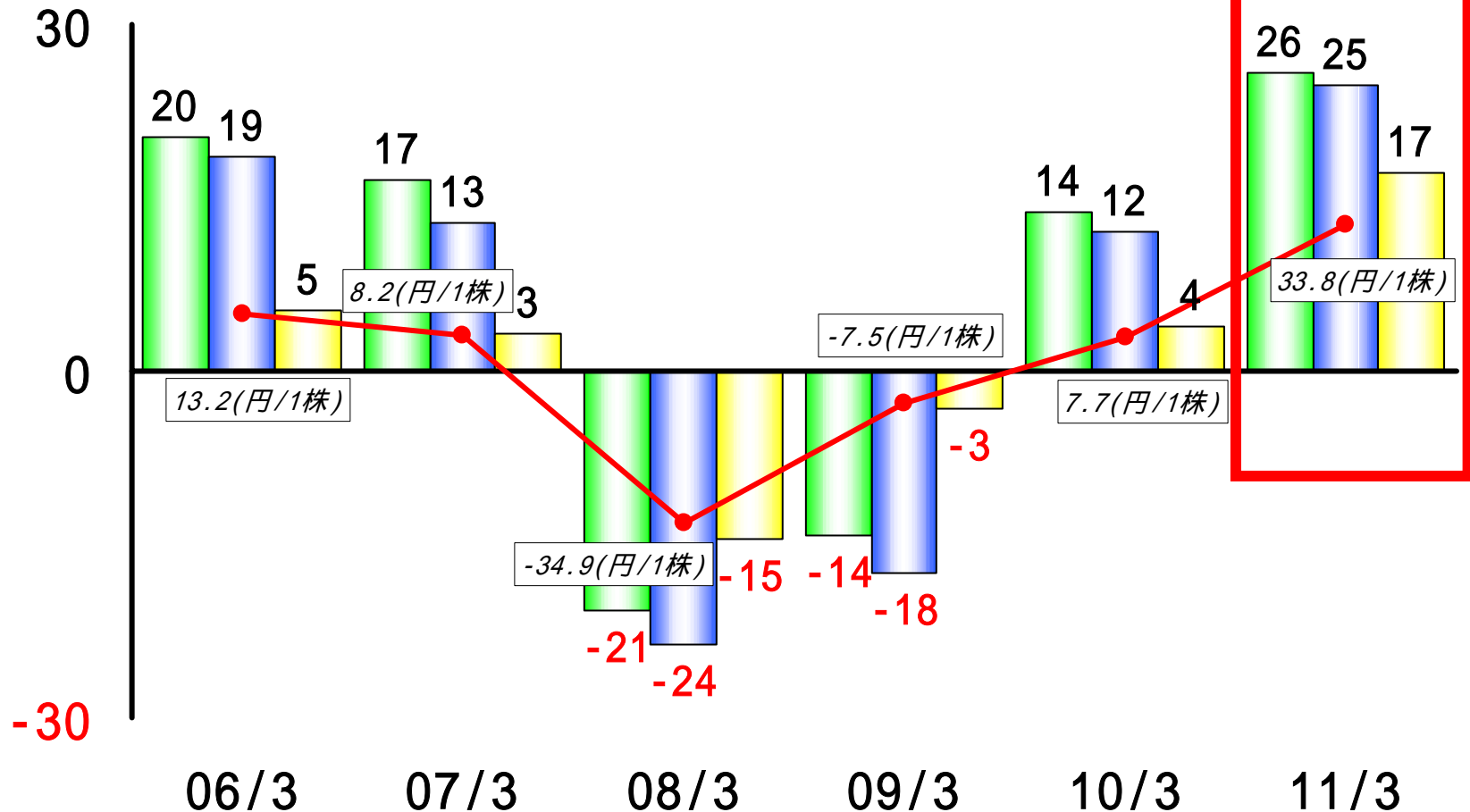


■ プラスチック材料加工事業 ■ 製紙・塗工紙関連事業 ■ その他

2011年3月期連結利益

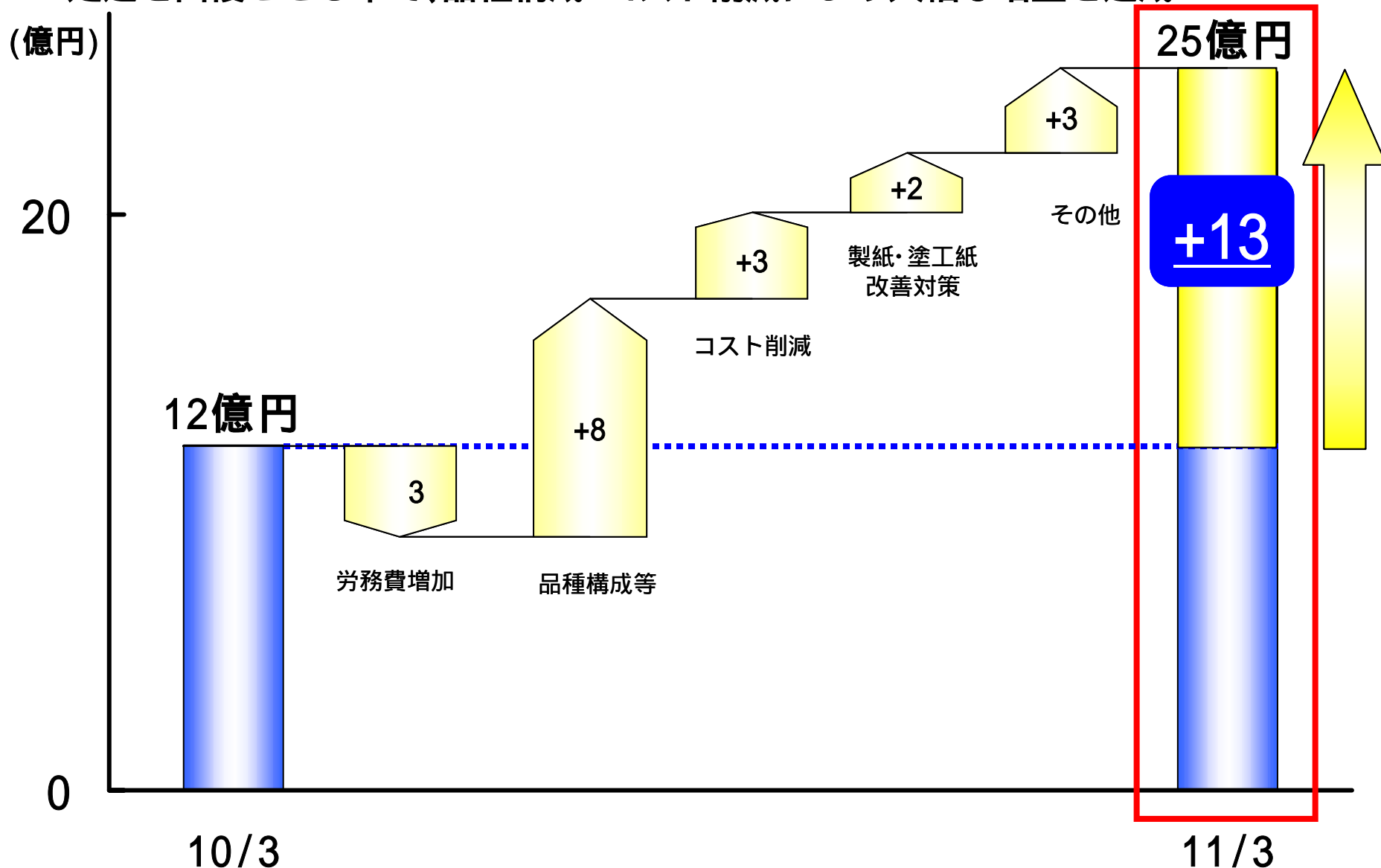
経営合理化努力と新製品投入効果等により2期連続での黒字を計上
2011年6月には復配を予定

(億円)

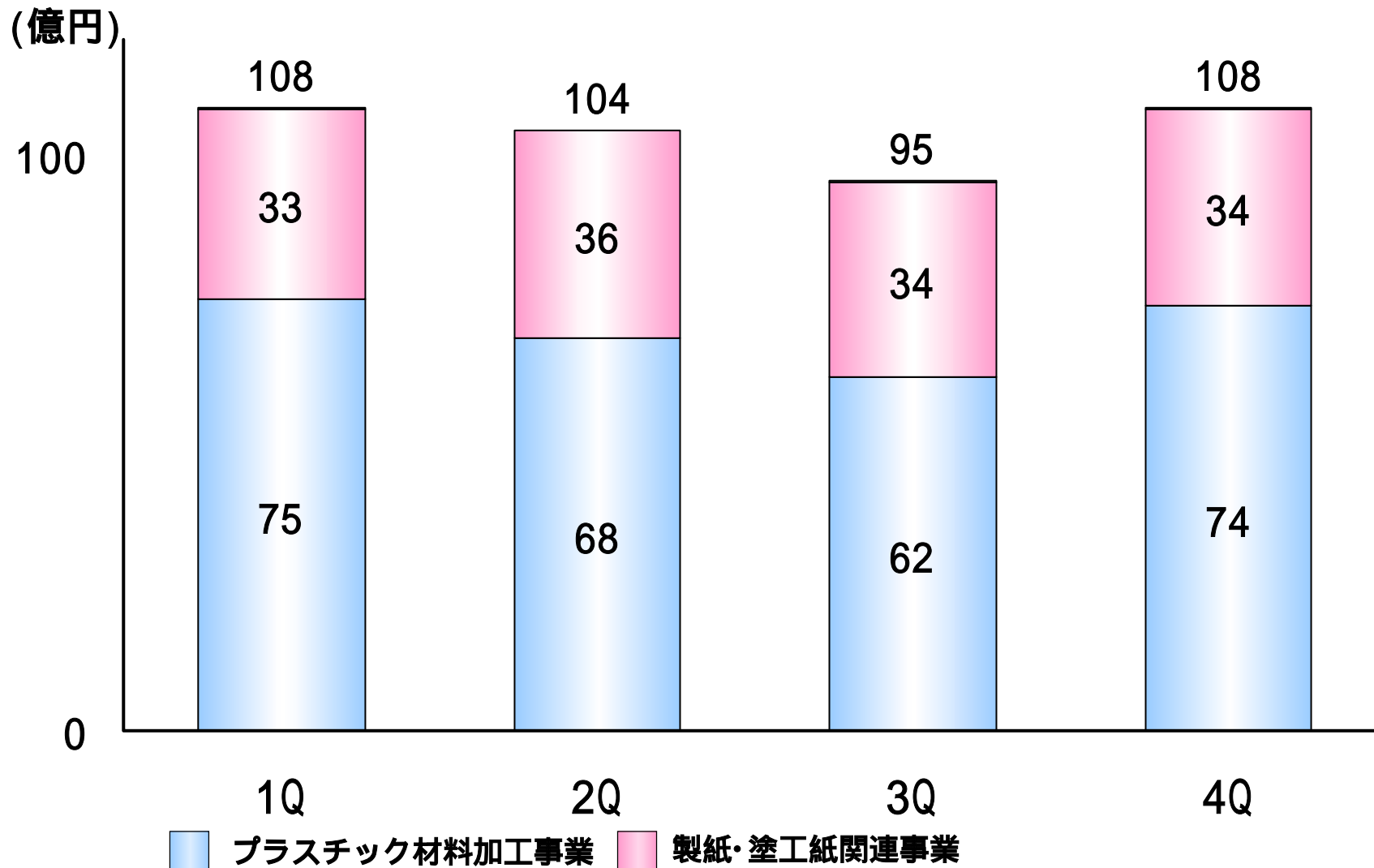


■ 営業利益
 ■ 経常利益
 ■ 当期純利益
 ● 1株当たり当期純利益

処遇を回復させる中で、品種構成・コスト削減により大幅な増益を達成

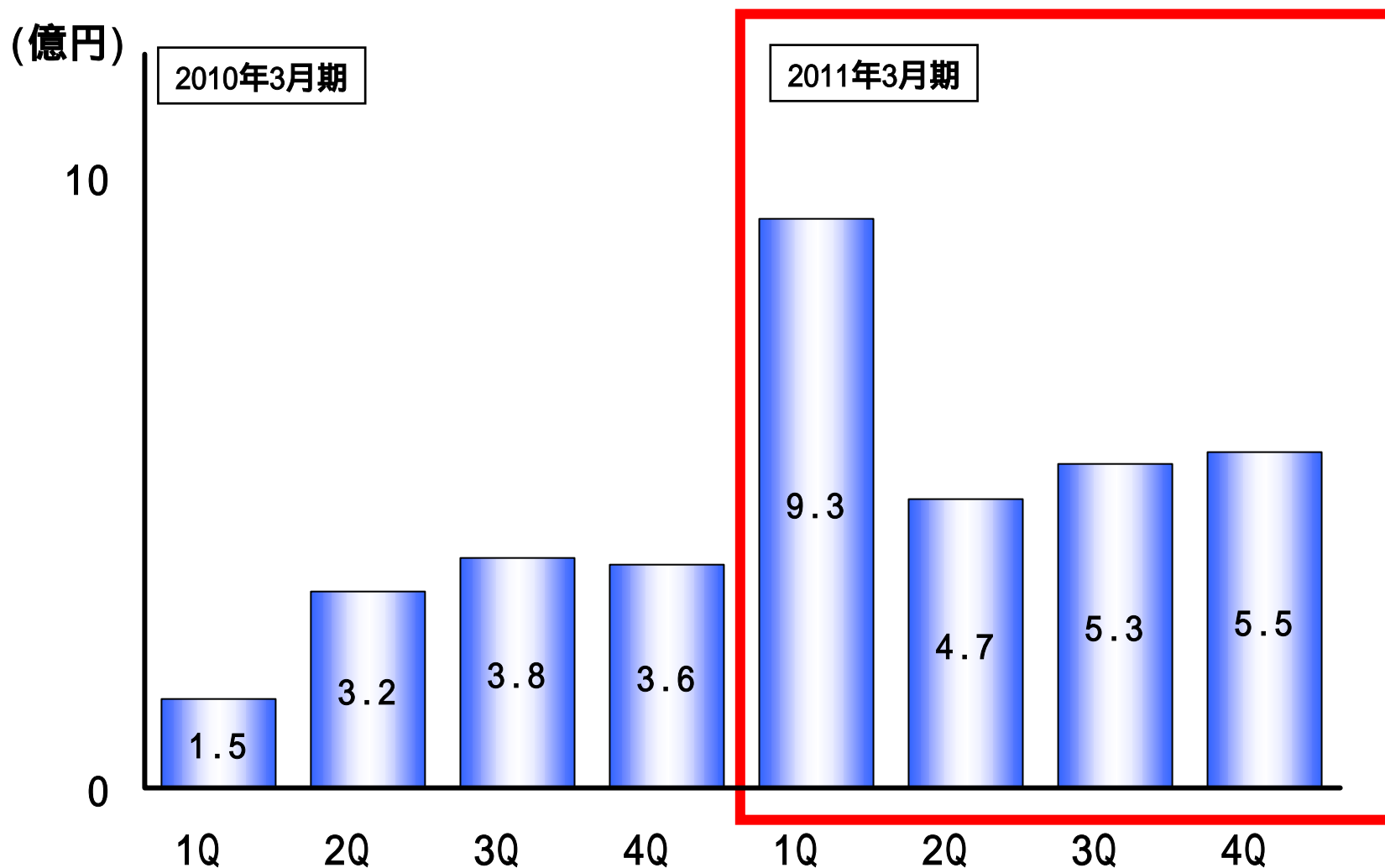


上期好調な売上は、3Qにおいて一旦落ち込むも、4Qで上期水準に回復

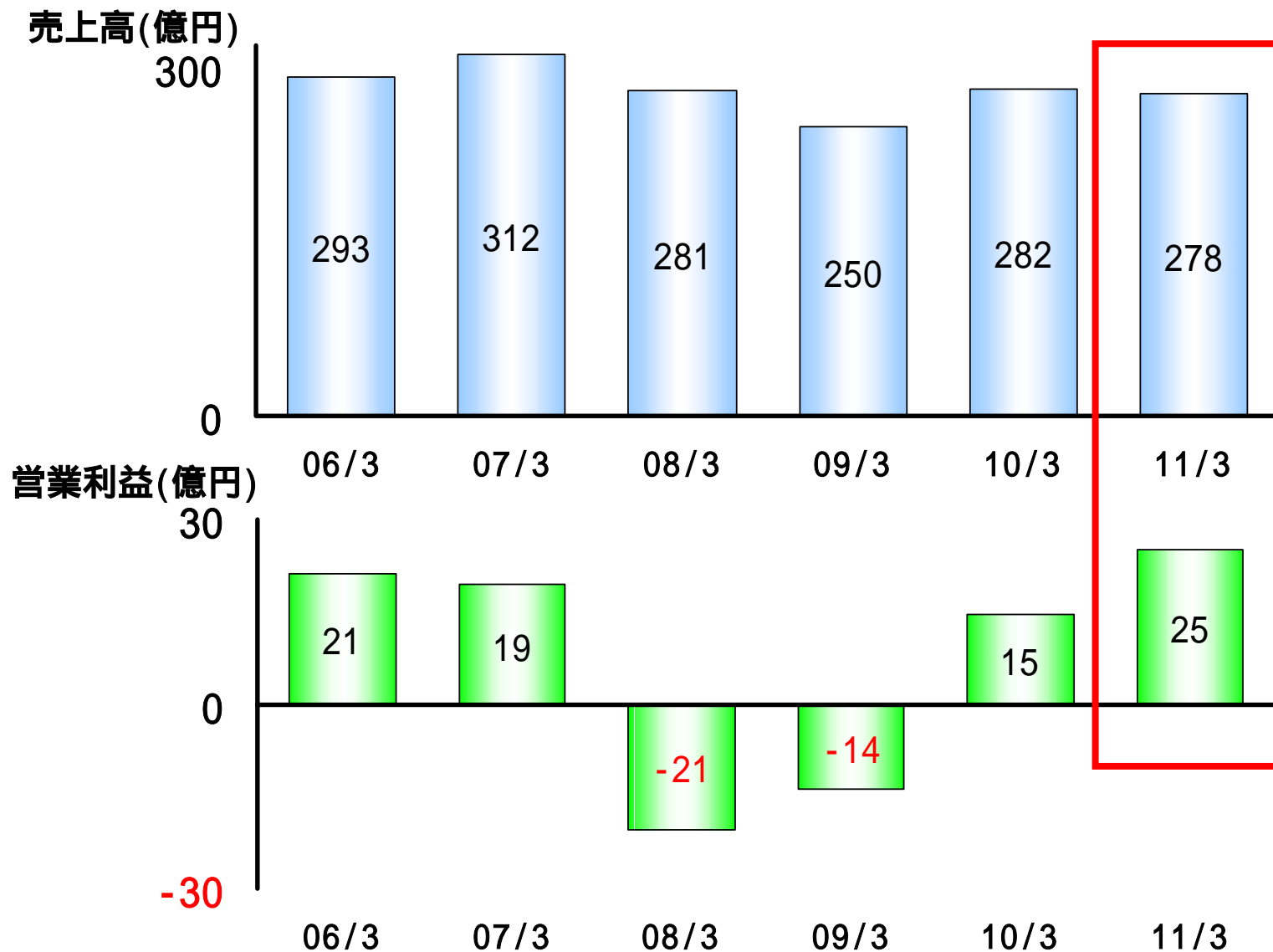


2011年3月期連結経常利益 四半期推移

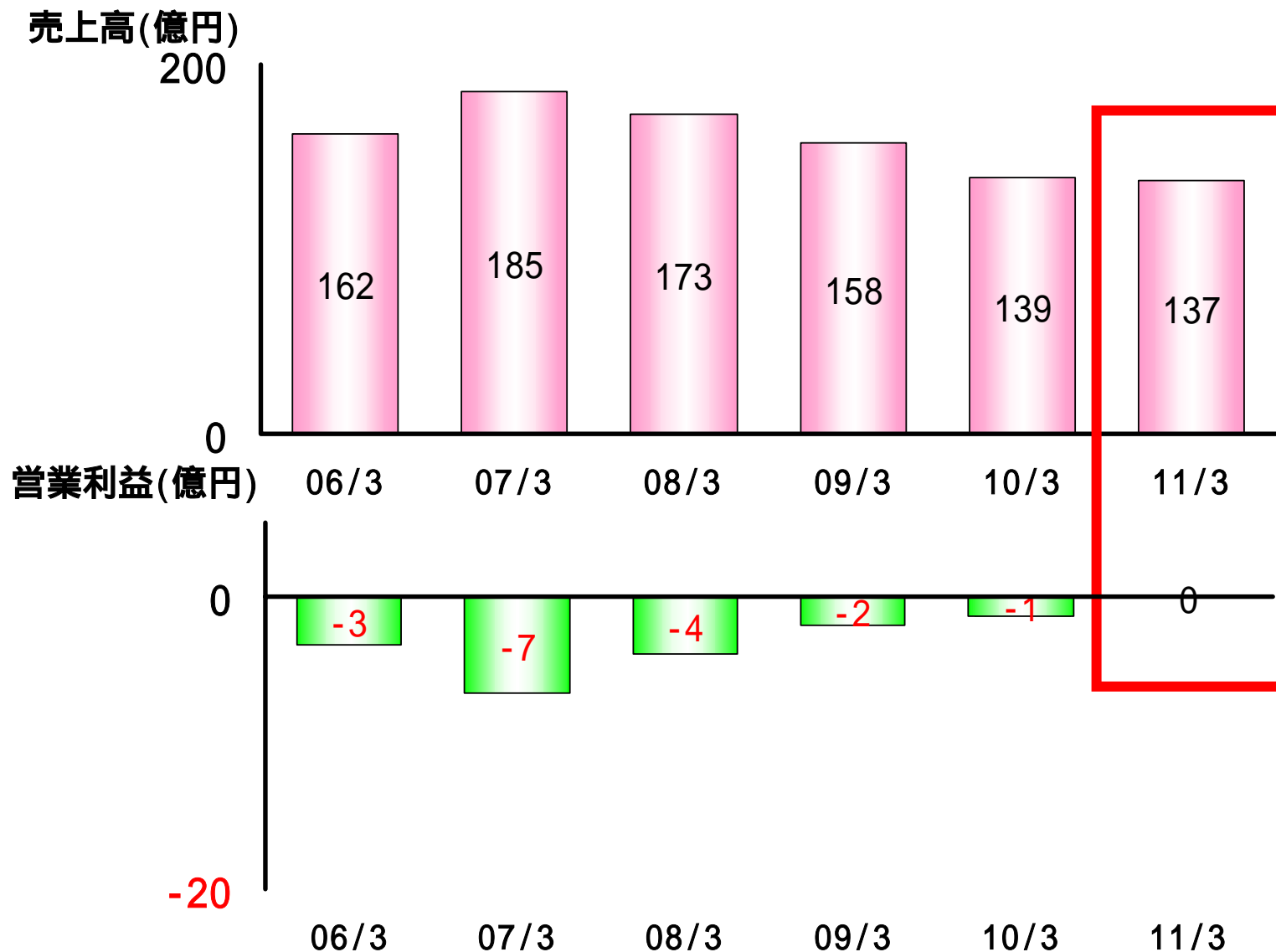
受注の急回復・円安に支えられた1Q以降も、全四半期において前期を上回る利益を創出



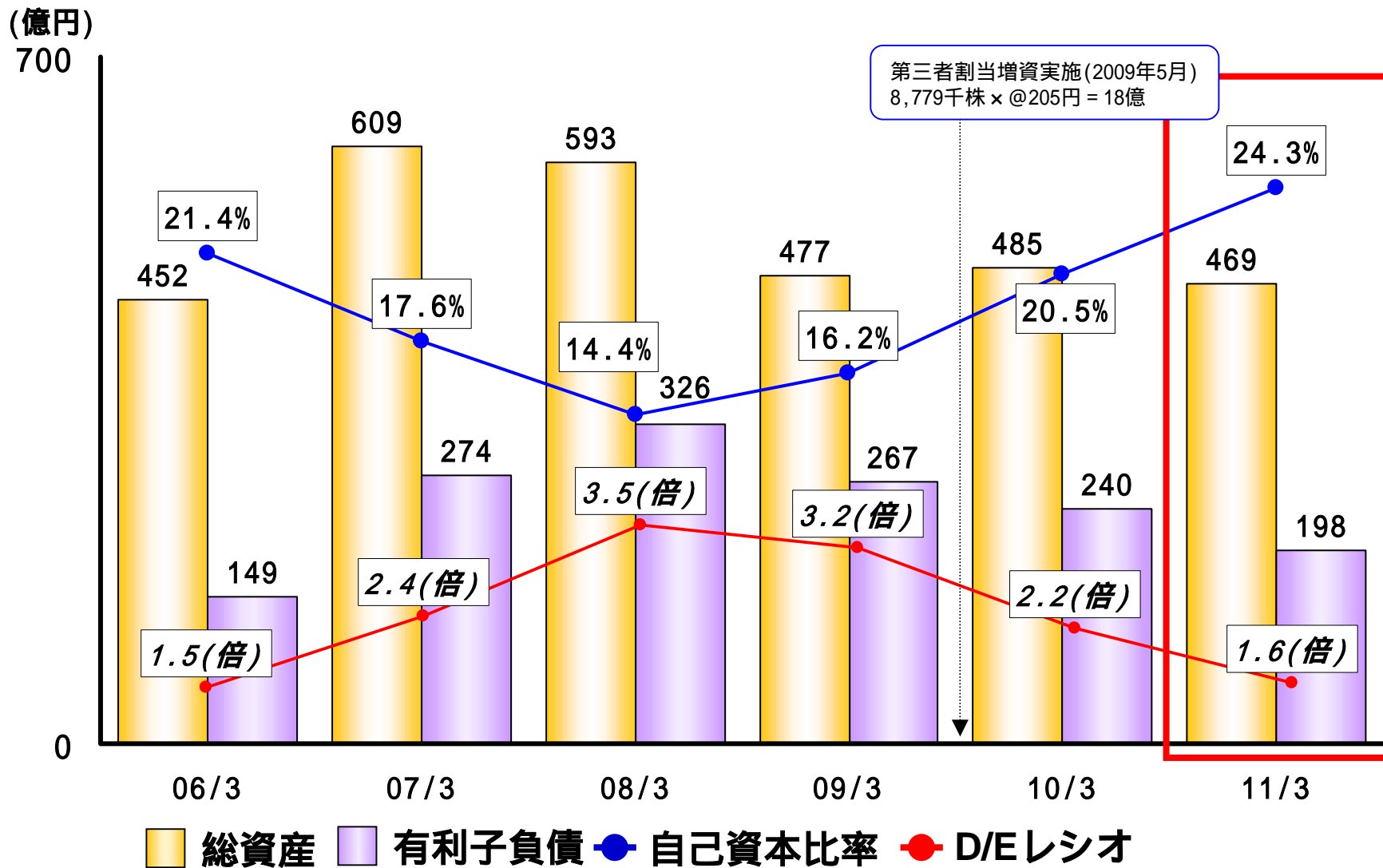
リーマンショック後、売上が回復する中、利益体質も大きく改善



売上の減少に歯止めがかかり、黒字体質への転換に目処



有利子負債の削減が進み、自己資本比率、D/Eレシオが改善



当社グループ概要

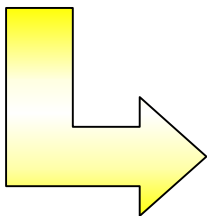
2011年3月期報告

2012年3月期計画

凸版印刷との提携

海外展開

成長への再スタートを切るための準備の年



- 震災影響からの早期脱却
- 開発への投資
- 海外事業への投資

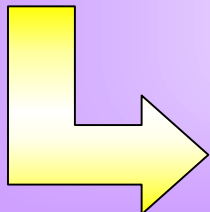
2012年3月期	公表値
売上高	380 (億円)
営業利益	18 (億円)
経常利益	18 (億円)
当期純利益	11 (億円)

◆ セグメントの方向性

プラスチック材料加工事業

成長へ向けた再挑戦

- 既存事業の拡大
- 新規事業の育成

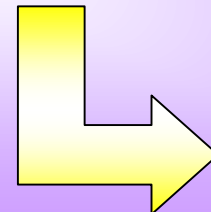


- ◆ 海外展開の加速
- ◆ 凸版印刷との提携を通じた
ビジネス展開
- ◆ 選択と集中による新製品開発

製紙・塗工紙関連事業

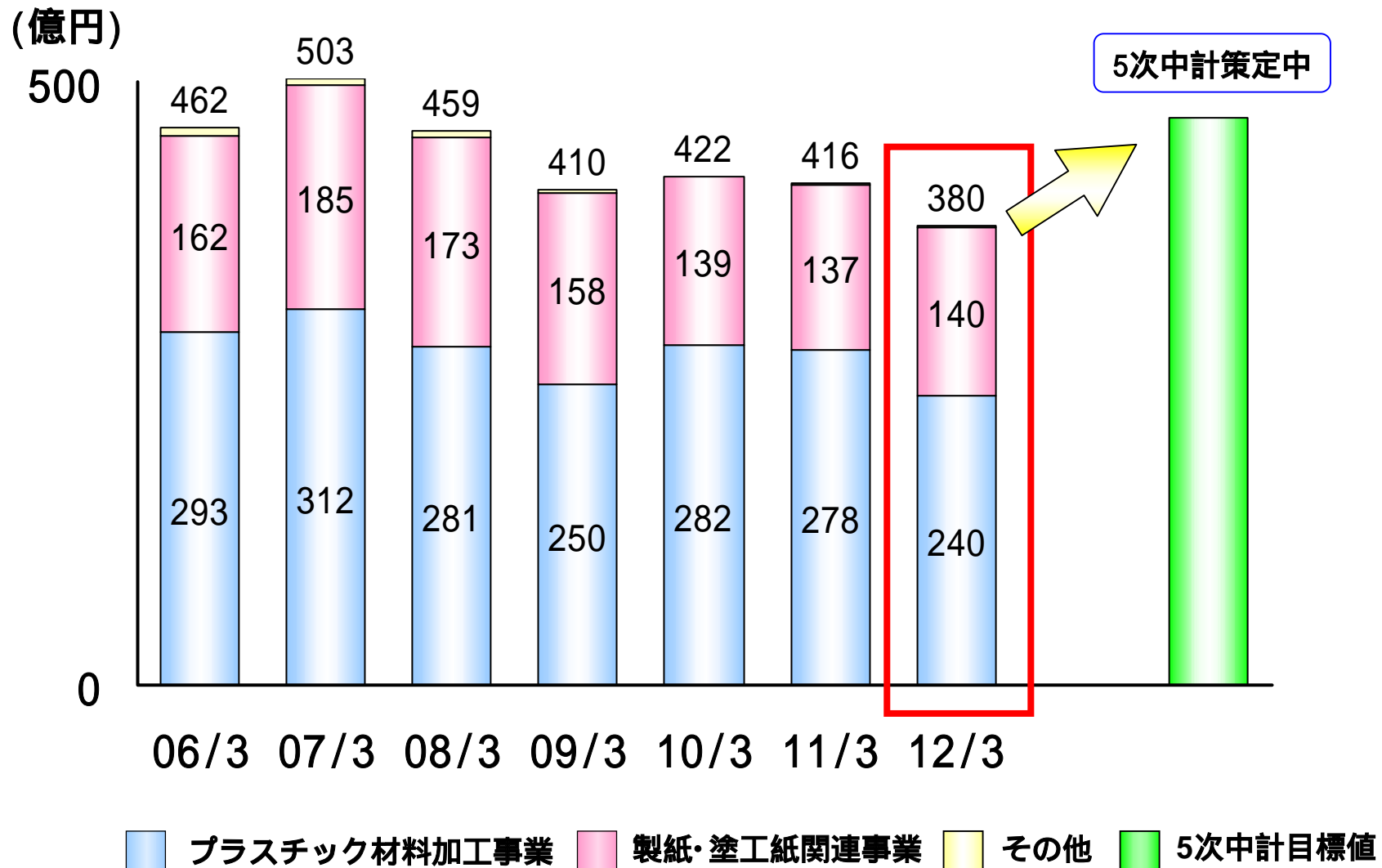
黒字体質の定着

- 売上の回復・増加
- 安定した利益の創出

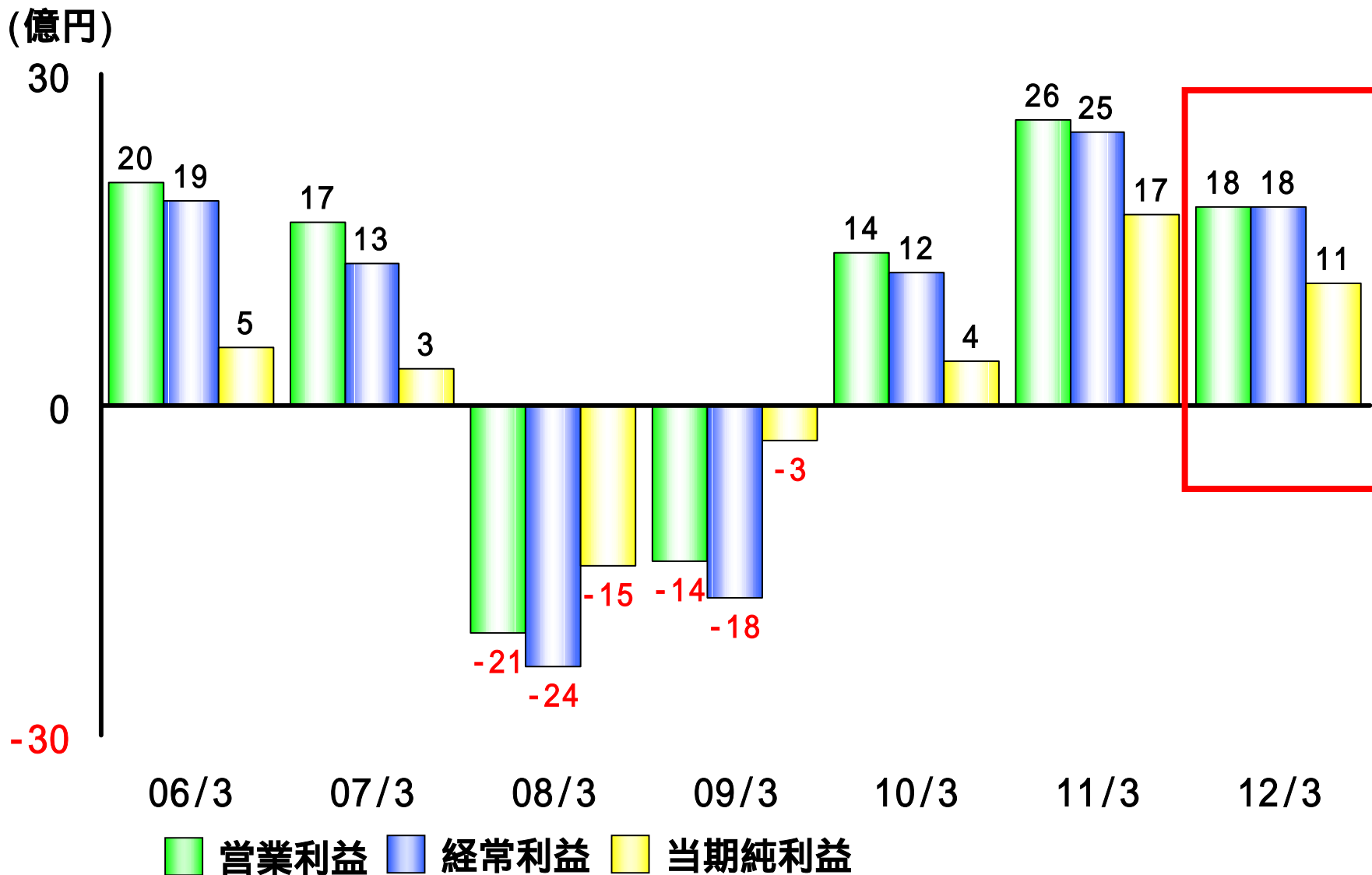


- ◆ 機能紙事業の拡大
- ◆ 原価低減活動の推進
- ◆ 海外市場の開拓

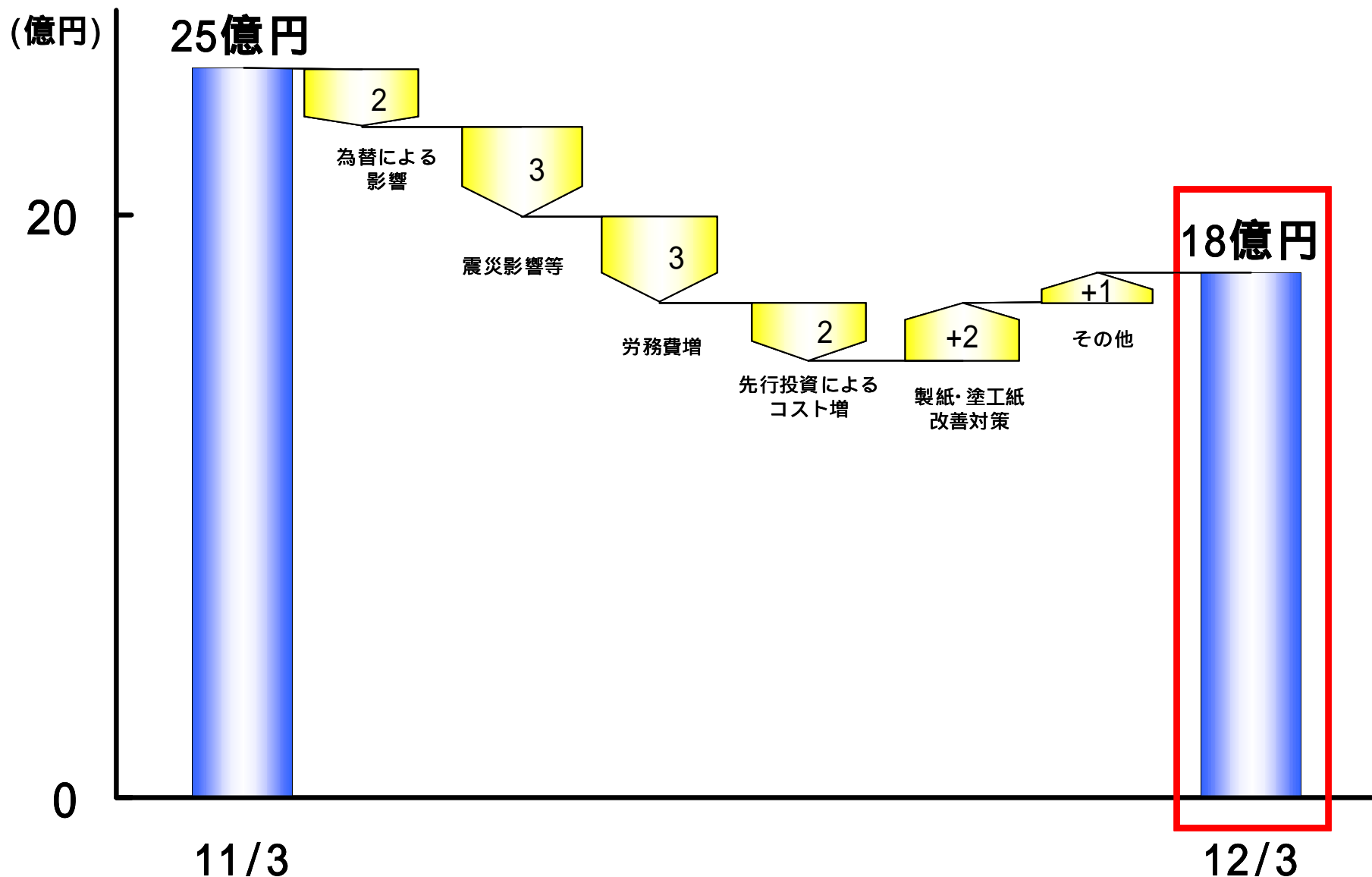
仕入販売ビジネスの縮小と震災影響等による減収を見込む



減収が予想される中、さらなる利益体質の改善を進めていく



先行投資によるコスト増を吸収しつつ、最大限の黒字確保を目指す



当社グループ概要

2011年3月期報告

2012年3月期計画

凸版印刷との提携

海外展開

ディスプレイ用反射防止フィルム事業での提携

それぞれの強み 当社の製品開発力・技術力と凸版印刷の生産能力・販売力

を活かした協力関係が着実に進展

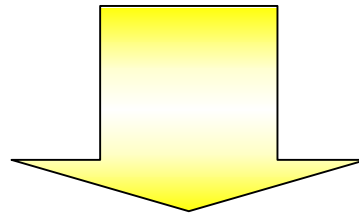
09/4 資本・業務提携を合意

09/5 凸版印刷株式会社宛第三者割当増資実施 筆頭株主へ(6.76%)

09/12 ディスプレイ用反射防止フィルム事業の合弁製造会社設立を合意

10/2 **株式会社トッパンTOMOEGAWAオプティカルプロダクツ設立**
(凸版印刷80%/巴川製紙所20%)

11/5 資本関係をさらに強化 主要株主へ



上記分野にとどまらず、より幅広い協力関係構築を模索

当社グループ概要

2011年3月期報告

2012年3月期計画

凸版印刷との提携

海外展開

ジャパンリスクの顕在化

現状

- ・日本一極生産への懸念
- ・国際的信用力の低下
- ・人口の減少、少子高齢化
- ・技術力の優位性喪失
- ・円高リスクetc

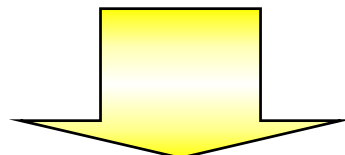
◆プラスチック 材料加工事業

- ・トナー事業は米国・欧州・中国に事業拠点を保有、海外売上高で大きなウェイトを占める
- ・半導体関連・FPD関連事業のアジア向けの輸出が近年拡大する傾向にある

◆製紙・塗工紙事業

- ・既存の顧客基盤を活かし、拡販に向け市場動向を調査中

今後の展開



◆プラスチック 材料加工事業

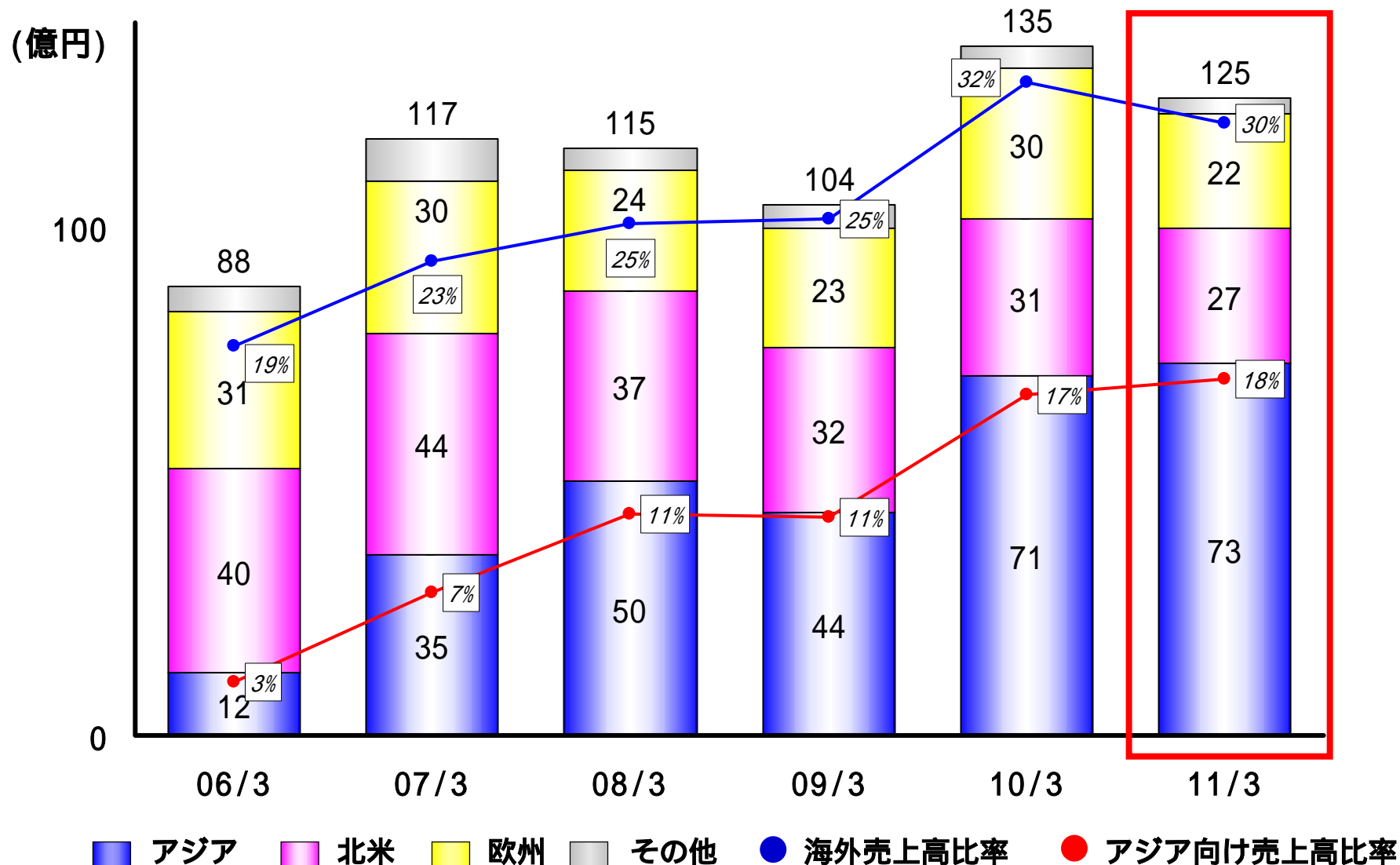
- ・トナー事業は製造・販売拠点の設立などアジア地域を中心とする成長市場へ注力、事業の強化拡大を図る
- ・半導体関連・FPD関連事業は輸出の拡大と一部工程の海外での分業等を目指す

◆製紙・塗工紙事業

- ・新興国におけるインフラニーズに対し、当社絶縁技術によるアプローチを図る

地域別海外売上高の推移

アジア向け売上の伸びに支えられ、海外売上比率は増加傾向にある

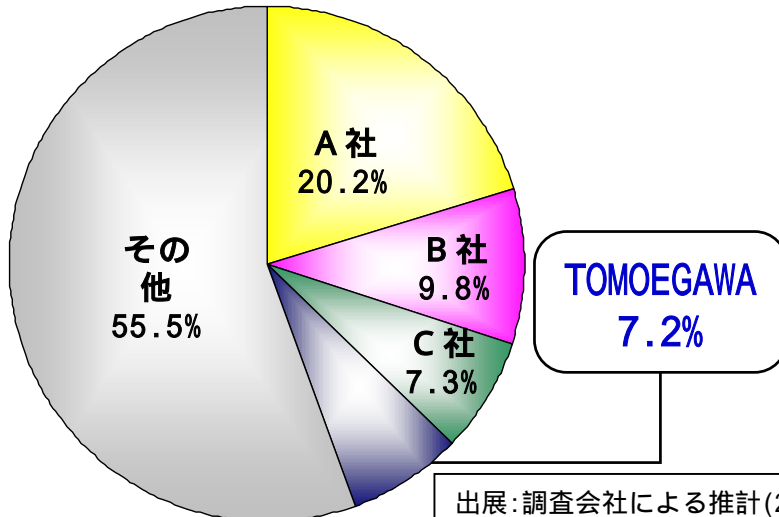


● 海外進出への先駆けとなったトナー事業

弊社トナー生産拠点	量産開始	所在地
株式会社巴川製紙所	1965年	日本 静岡市
Tomoegawa(U.S.A) Inc.	1978年	アメリカ イリノイ州
巴川影像科技(惠州)有限公司	2006年	中国広東省 惠州市
日彩影像科技(九江)有限公司	2011年予定	中国江西省 九江

弊社トナー販売拠点	所在地
株式会社巴川製紙所	日本
Tomoegawa(U.S.A) Inc.	アメリカ
巴川香港有限公司	香港
Tomoegawa Europe B.V.	オランダ
日彩影像科技(九江)有限公司	中国江西省 九江

トナー世界シェア



各拠点生産金額の推移

